

がん経験者の外見支援へのアクセス改善を目指した 医療・美容・地域連携モデルの構築

— 実態把握調査に基づく外見サポート研修会事業の展開 —

久村 和穂^{1,2}, 木村 美代², 松井 優子³, 久野 真知子⁴, 矢崎 未来⁴,
西部 明子^{5,6}, 元雄 良治⁷, 龍澤 泰彦^{2,8}

¹ 金沢医科大学医学部公衆衛生学

² 石川県がん安心生活サポートハウス

³ 一宮研伸大学看護学部

⁴ 金沢医科大学病院看護部

⁵ 金沢医科大学医学部皮膚科学

⁶ 本多町皮膚科クリニック

⁷ 福井県済生会病院内科・集学的がん診療センター

⁸ 石川県済生会金沢病院外科

1 なぜ地域での外見支援が必要なのか — 実態調査から見た「医療と地域の間の空白」 —

- がん治療に伴う脱毛や皮膚・爪の変化などの外見変化は、がん経験者のQOLや社会生活に大きく影響する。
- 一方で、外見支援に関する情報や相談先は十分に知られておらず、医療機関の外にある**地域資源につながらにくい**現状がある。

がん経験者の声 (自由記述からの要約)



周囲の目が気になる

美容院に行きたくても、
行く勇気がない

どこで相談したらいいの？

調査対象者：過去5年以内にがん治療による脱毛でウィッグを使用した女性

実態調査で明らかになった主な結果* (2019年10月-2020年1月)

女性がん経験者調査 (n=58)



75.9%

医療者以外で
身近な相談相手がほしい



10.3%

地域の理美容院等の
情報を得られた

*久村和穂、木村美代、松井優子ほか、地域における外見支援のアクセス障壁と多層的課題：がん経験者および美容業従事者の視点から、Palliative Care Research 2026;21(3):159-170.

美容業従事者調査 (n=262)



89.8%

外見支援において美容業従事者
にもできることがあると認識

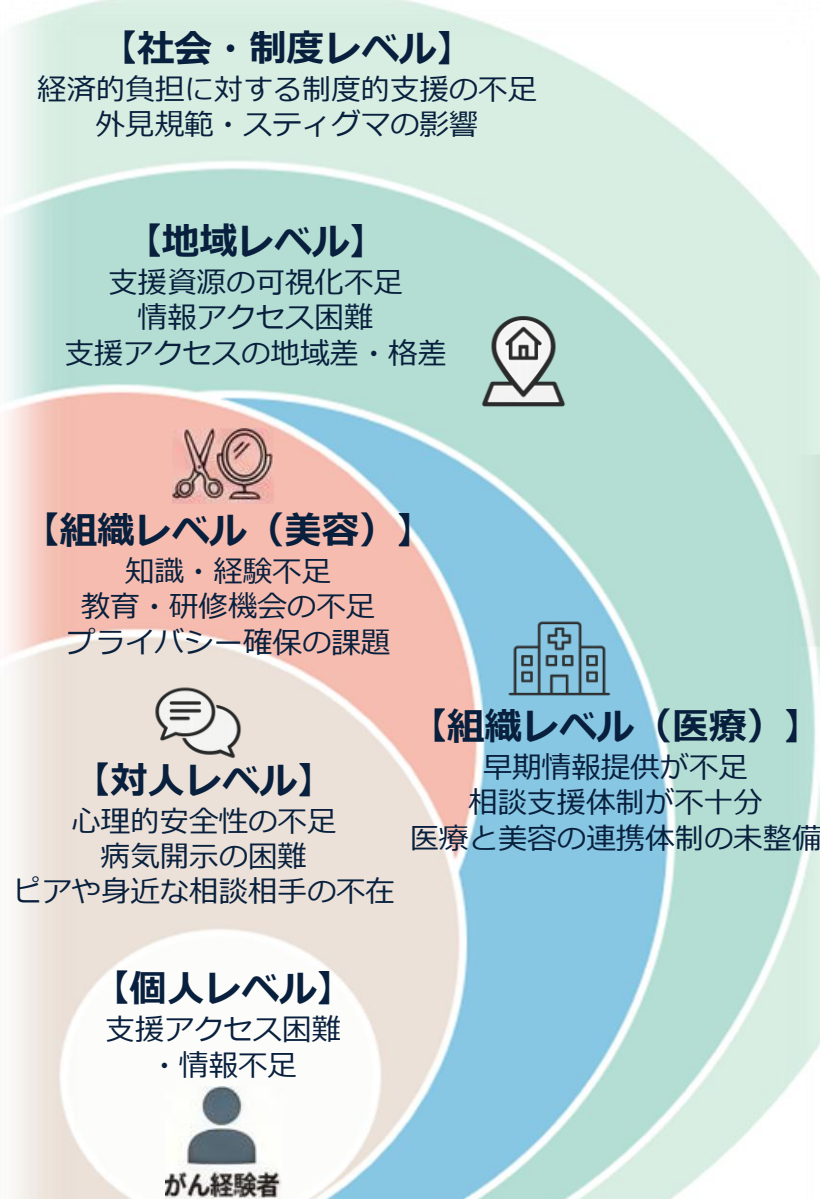


19.1%

がん経験者の外見支援に関する
学習機会があった

2 実態調査に基づく地域協働型外見支援の実践プロセス — ニーズ把握から支援の仕組みの設計・実装へ —

実態調査で明らかになった 多層的な課題 (既報原著*)



- **がん経験者と地域の支援資源をつなぎ、
必要な支援へのアクセス向上と切れ目
のない外見支援体制の構築が必要**



ニーズ把握

当事者・地域の
ニーズの把握



評価・改善

取組の効果検証と
継続的な改善

地域協働型 外見支援の 実践プロセス

多様な主体の協働により
継続的に実践を
推進する



住民への 情報提供・啓発

公式ホームページ
の開設



(公式HPのQRコード)



地域資源の 可視化

地域の支援資源の
整理と共有



地域実践の設計

医療×美容の
共同研修会の企画



ネットワーク 形成

地域の多職種協働
基盤の構築

研究会の主な取組



実態調査・当事者の声

がん経験者のニーズ調査
支援資源の現状把握



研修プログラムの設計

医療×美容の共同研修会の設計
当事者インタビューの動画教材
Eラーニング教材の作成



医療 × 美容の共同学習・ ネットワーク形成

多職種の対話・意見交換
地域でのつながりづくり



修了者・地域資源の可視化

修了者リストの作成
地域資源マップの整備と公開



ホームページ・動画による 住民向け情報発信

セルフケア動画・体験談の公開
県民向けセミナーの開催

【研修プログラムの概要】



がん経験者
の体験談



セミナー
(がん医療の
現況など)



実践報告
(医療・美容)



グループ
ワーク
(意見交換)

3 活動の成果と情報充足度の変化 — 人材育成と地域資源の形成、そして支援アクセスの改善へ —

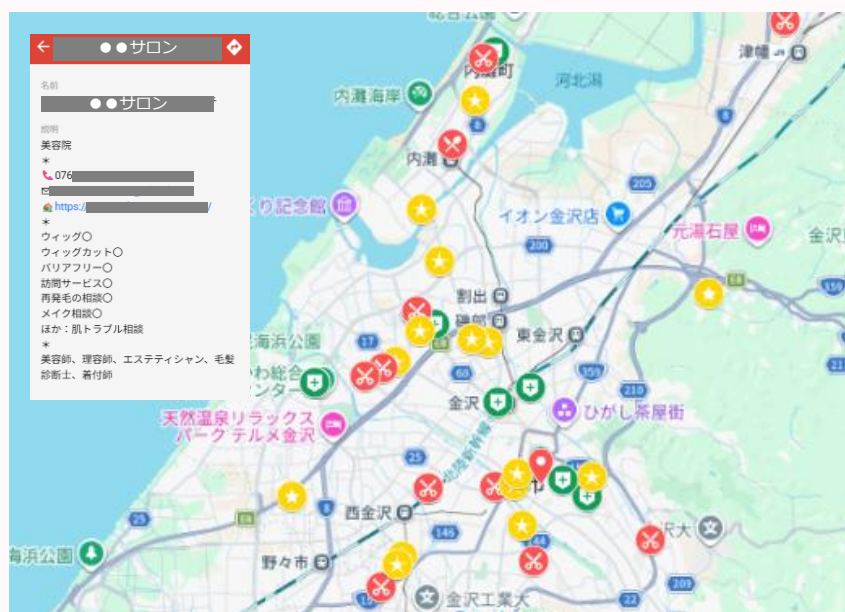
研修会の成果 (第1～6回)

◆ 研修修了者
(2021～2026年) **171名**

◆ 地域資源として可視化
HP掲載施設 **93施設**

理美容・ネイル等 **72施設**

医療福祉施設 **21施設**



研修修了者所属施設マップ (公式HPにて公開)



集合研修の様子



グループワーク・意見交換

第6回研修会後アンケート (n=23)

95.7%

関心・理解が
深まった

100%

より積極的に
取り組みたい

87.0%

今後より自信を
もって取り組める

地域の理美容院等に関する情報充足度の2時点比較 (女性がん経験者調査)

「十分」または「ある程度」
情報を得られた者の割合

約2.7倍

27.7%

30

20

10

0

10.3%

2019年
(n=58)

2023年
(n=47)

※異なる対象者による2時点の比較であり、本活動による因果的効果を
直接示すものではない。

【調査概要】 2019年調査：
2019年10月～2020年1月、n=58、2023年調査：2023年1月～3月、n=47。共通の情報充足度項目を用いた独立2群間の比較。

【統計解析】 情報充足度を3段階（十分＝3点、ある程度＝2点、ほとんど得られなかった＝1点）で得点化し、Mann-Whitney U検定により独立2群間で比較した（p=0.036）。2019年の割合は全回答者58名を分母とし、検定では欠損2名を除外。

4 活動から得られた示唆

- ◆ **当事者・地域のニーズを起点**に、課題を把握することが重要
- ◆ **医療と美容が共に学び、つながる**ことは、地域における支援ネットワークの形成に寄与する可能性がある
- ◆ 育成した人材を地域資源として**可視化**し、患者・住民が**支援にアクセスできる仕組み**を整えることが必要である

5 今後の課題

- ◆ 継続的なフォローアップと**交流の場の確保**
- ◆ 医療・美容・地域の**連携強化**
- ◆ がん経験者の支援アクセスやQOLへの**効果の検証**
- ◆ 他地域への**応用可能性**の検討



Key message

「支援者を増やす」だけでなく、
「必要な人が支援の存在を知り、地域で支援につながれる仕組み」をつくる

倫理的配慮：実態調査は、金沢医科大学医学研究倫理審査委員会（No. I-401）および石川県済生会金沢病院倫理審査委員会（令和元年度第5号）の承認を得て実施した。
研究助成・事業支援：本活動は、公益財団法人在宅医療助成勇美記念財団の研究助成、石川県高度・専門医療人材養成支援事業補助金、石川県がんアピランス支援事業委託費、および公益財団法人喜・榮・音と支援財団の助成を受けて実施した。関連研究の一部は、JSPS科研費 JP22K10788の助成を受けた。

日本緩和医療学会 支部学術大会 COI 開示

議題名：がん経験者の外見支援へのアクセス改善を目指した
医療・美容・地域連携モデルの構築：
実態把握調査に基づく外見サポート研修会事業の展開

発表者名：久村和穂、木村美代、松井優子、久野真知子、
矢崎未来、西部明子、元雄良治、龍澤泰彦

本演題発表内容に関連し、
主発表者及び発表責任者には、
開示すべきCOI 関係にある企業等はありません。